



こんにちは！
菊地葉子です

道政報告
2022年11月号

No.81

菊地道議追加補正で低所得者対策を求める 鈴木知事「福祉灯油」実施を市町村に働きかけると答弁

メルヘン交差点信号機再設置される



信号機撤去後

再設置された信号機

6月の道政報告で「メルヘン交差点の歩行者信号機上の信号機が取り外され危険な状態、再設置を求める」とお知らせしました。

北海道警察から「11月下旬までには再設置します」と報告がありましたが、10月中旬に設置されていました。交差点のかなり手前から信号が確認出来て安心して運転が出来る様になりました。

生活相談を受けています

- 月曜日～金曜日
- 午前10時～午後4時

菊地葉子事務所

小樽市稲穂 1-12-205 ステーションハイツ
☎64-5591 FAX64-5592



菊地道議は「労働者への直接支援は相談と貸付事業以外にない。直接の負担軽減と一体で物価高騰対策を行うべきはないか」と質問。知事は「企業に専門家を派遣し、非正規雇用労働者の待遇改善の取組を後押しするほか、勤労者福祉資金制度により、生活資金を低利で融資するなど労働者の生活の安定に向けた支援を行っている」と「国の節電プログラムの特典に道独自に乗せの事業を本定例会に追加提案した」と答弁。抜本的な支援にはほど遠い中身です。

医療機関・公衆浴場・介護・障害福祉施設・保護施設への電気料高騰に対応する支援も盛り込まれました。対象になる医療機関、介護・障害施設だけでも1万5000施設に上ります。菊地道議は制度の周知徹底、支援の円滑な手続きに向けた事務同体制の構築を求めました。知事は「これまでに感染症対策として実施した医療機関に対する各種支援金の例も参考に手続きがより簡便になるよう工夫するなどして円滑な事業実施に向けて取り組む」と答弁。

中小企業支援と一体に労働者への直接支援を

医療・社会福祉施設等物価対策支援事業の制度周知を



3定本会議質疑に立つ菊地道議

第3回定例会最終日10月7日に緊急経済対策として約129億円の追加補正予算案が提案されました。菊地葉子道議は労働者への直接支援、福祉灯油の実現等を求めて質問にたちました。

すでに昨年より高い灯油「福祉灯油実施推進を」

北海道は昨年9月15日の灯油価格がリッター198円になったのを受け、市町村が実施する福祉灯油事業への北海道の助成額を例年の1.5倍に引き上げました。今年はずでに9月15日の灯油価格が120円と昨年同月との比較で22円も値上がりしています。菊地道議は実態に見合う支援が必要と鈴木知事に迫りました。鈴木知事は「福祉灯油事業」については、昨年度と比較して灯油価格の高騰した状態が続いていることから、より多くの市町村に取組んでいただけるよう、積極的に働きかけてまいります」と答弁しました。今後は市町村での働きかけと同時に北海道の独自支援策の拡充を求めています。



石切山へ新幹線トンネル残土 搬入計画中止に!!



新光で行われた市民報告会（左上：菊地道議）

9月30日「朝里にヒ素・カドミウム等の有害トンネル掘削土を入れさせず地域の環境と水を守る会」は、北海道新幹線のトンネル工事から出る猛毒のヒ素を含む掘削土の搬入計画を中止するよう、迫俊哉小樽市長に要請しました。

昨年7月熱海市の土砂災害後、盛り土再点検で今年7月に朝里川温泉1・2丁目土砂災害特別警戒区域として追加されました。「石切山」はその上部にあり近くには小樽市民の6割に飲料水を供給する浄水場があります。住民から強い不安と反対の声が上がっていました。

迫市長は、石切山の掘削土搬入計画中止を鉄道運輸機構に申し入れると表明しました。

10月15日「水を守る会」の報告会が開催され、菊地道議も参加して道議会での取り組みを発言しました。

菊地葉子道議は2020年6月「水を守る会」の皆さんの声を聞き、道議会特別委員会で、「機構は広く住民への説明会を開き住民の不安に答えるべき。道は住民の立場にたって機構の動きを注視すべき」と質問してきました。



道教育委員会主催研修に統一協会関係者が参加 —共産党の質問で明らかに—

道教育委員会は、9月28日の宮川道議の一般質問に「統一協会・関連団体との関連は一切ない」と答えていました。

しかし、旭川市議会で「旭川家庭教育を支援する会」と統一協会の関連が明らかにされ、その会員2人が、昨年12月に道教育委員会が主催した「家庭教育支援研究協議会」に参加していたことが、10月4日真下紀子道議の追求で発覚しました。この協議会は、家庭教育ナビゲーターや家庭教育サポート企業の関係者、学校関係者、地域ボランティア、市町村教育関係者を対象にしています。「支援する会」の2人が「家庭教育支援研究協議会」に地域ボランティアとして参加していたことを道教委は認めました。真下道議は、統一協会や関連団体は正体を隠して近づき、教育に介入してくると指摘し、道教委に慎重な対応を求めました。



道立高校の統廃合基準廃止 ～保護者と連携した運動実る～

9月12日開催の道議会文教委員会で、道教育委員会は「これからの高校づくりに関する指針」ですすめてきた高校統廃合を進める際の「4学級基準」を廃止すると報告しました。

道は全日制の道立高校を20年間で52校（全体の21%）減らしてきましたが、そのうち22校は市町村で唯一の高校でした。

宮川道議は4月の文教委員会で「道立高校の過半数が3学級以下で『4～8学級が望ましい基準』は破綻している。地域に必要とされる高校を存続させるべき」と質問。道教委は「現行指針について、地域から意見を伺い見直しをする」と答弁していました。今回の報告はこれに答えたものです。

統廃合は、生徒の遠距離通学の負担だけでなく、地域づくりにとっても重大な問題になっています。

各地の首長も「地元の高校を守れ」と声をあげてきました。道高教組の道端剛樹書記次長は「教育署名で市民と共同し、道教委や自治体と意見交換してきた」と語ります。教育関係者・住民・保護者の運動の成果です。

～住民要望に応え～ からまつ公園前道道の草刈り実現



道路に雑草が広がり「景観上も生活上もひどい」と住民から苦情が寄せられ、菊地道議が対応しました。

街頭から道政報告



枝払いされてスッキリ



枝払い前の樹木 スッキリした樹木

歩道に追い被さって歩行者にぶつかると苦情が。菊地道議の申し入れできれいになりました。